

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和2年7月1日※1  
(前回公表年月日: 令和1年7月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
東京コミュニケーションアート専門学校	昭和62年11月18日	篠塚 正典	〒134-0088 東京都江戸川区西葛西6丁目29番9号 (電話) 03-3688-2205																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養専門課程	自動車デザイン科(昼間部一)	平成27年文部科学省告示第14号	平成23年文部科学省告示第171号																							
学科の目的	自動車のデザイン開発、モデル制作業界で求められる知識・感性・技術と国際感覚を備えた人材を育成することを目的とする。そのために必要なデザインの捉え方やアイデア展開、モデリングのスキル向上などの専門的な知識や技術および英語を学ぶ。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	昼間	124	0	176	4	0	40																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
80	71	26	4	10	14																						
学期制度	■1学期(前期): 4月1日～9月30日 ■2学期(後期): 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席状況、試験、提出物を元にA,B,C,Dの4段階にて評価																							
長期休み	■春季: 3月14日～4月7日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月5日		卒業・進級条件	学期ごとに試験を行い、また最終学年の終わりには、卒業試験を行う。科目の成績評価及び進級・卒業判定会議の審議に基づき、進級、課程修了の認定を行う。ただし、演習、実習については演習、実習の成績によって修了を認定することができる。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任制度により学期ごとに個人面談を実施。また、保護者を含めた三者面談や学生相談センターによるカウンセリング等も実施している。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭等の実行委員会・スポーツ大会実行委員会等  ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) トヨタ自動車株式会社/株式会社本田技術研究所  ■就職指導内容 キャリアセンターによる進路相談の他、履歴書添削、ポートフォリオ指導、面接対策等を実施している。  ■卒業生数 : 11 人 ■就職希望者数: 7 人 ■就職者数 : 7 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 63.6 %  ■その他 ・進学者数 : 1名  (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>無し</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	無し															
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
無し																											
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成31年4月1日時点において、在学者69名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者65名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、病気・治療、学生生活不適合、進路変更		■中退率 5.8%																								

	<p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個人面談の他、保護者を含めた三者面談や学生相談センターによるカウンセリング等も実施している。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 出席率を基準とした留学生対象の学費減免制度あり</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="http://www.tca.ac.jp/creative/school/public_info/index.html">http://www.tca.ac.jp/creative/school/public_info/index.html</a></p>

- (留意事項)
- 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください
  - 就職等の状況(※2)  
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。  
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。  
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。
  - 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

クリエイティブ業界において、人に感動や喜びを与えられるベストクリエイターとしての即戦力が身に付けられるよう、職業人教育を実施していくために、業界が必要とする人材を業界と共に育成する、産学協同教育システムのもと、すべての教育課程を編成している。

具体的には主に次の3つを基本方針としている。

- 1.専任教員と業界で現役として活動している兼任教員による講師会議にて、現在の在学生の状況を踏まえ、業界に求められる即戦力を育成するための方策を検討、授業内容の改善を図る。
- 2.普段は授業等で学生と関わらない、第3者として助言を受けることで、学生の現状を切り離れた業界からの要望を把握するため、教育課程編成委員会を設置。業界動向や、業界の方の意見、要望などを取り入れ、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行う。
- 3.学校主催の合同企業説明会への参加企業、業界研修の受け入れ先企業、授業への企業課題の提供をいただいている企業から情報提供を得て、今後求められる即戦力を把握。授業内容の改善に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、理事会のもとで各校ごとの委員会が設置され、(添付教育課程編成委員会規程参照)、委員会の適切な運営は理事長が担保する。また、学校運営においては、教員組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に活かし、実績的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営する。

具体的には次の流れで教育課程を作成する。

教務部が学生の学習状況や学生の目指す業界の状況から原案を作成する。原案は第1回教育課程編成委員会にて吟味し、業界事情を鑑みた指摘事項を教務部に提示する。指摘事項を元に再度教務部にて調整を行い、第2回教育課程編成委員会にて確認を受ける。その後、学校長の承認をもって最終決定となる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
福井 秀行	フリーランス・工業デザイナー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
溝川 誠司	社団法人 日本広告制作協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
篠塚 正典	学校法人滋慶学園 東京コミュニケーションアート専門学校	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	学校所属
東 亜衣子	学校法人滋慶学園 東京コミュニケーションアート専門学校	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	学校所属
大竹 豊	学校法人滋慶学園 東京コミュニケーションアート専門学校	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	学校所属
平井 伸孝	学校法人滋慶学園 東京コミュニケーションアート専門学校	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	学校所属
砂嶽 佳代	学校法人滋慶学園 東京コミュニケーションアート専門学校	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	学校所属

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(4月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 平成31年4月6日 17:00～18:30

第2回 令和1年10月5日 17:00～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

第1回の委員会で頂いた意見に基づき、令和2年度カリキュラムを作成。令和元年10月5日の委員会にて報告し、承認を経て以下のように改定し、実施している。

**【就職支援】**

就職支援の中に、必要とされる人材の特性を割り出し、これを学生に当てはめるための講座を新たに開設した。

**【下位の学生への支援】**

下位の学生のレベルに合わせた教育の開始時期を半期早め、1年次の中途段階より上位学生と下位学生のクラス編成を行い、下位学生に的を絞った効力向上カリキュラムを実施した。

**2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係**

**(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針**

業界が求める人材を業界とともに育成する「産学連携教育」を基本方針とし、専門技術・知識、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成を行うため、企業から仕事を課題としていただく「企業プロジェクト」を通して実践的な授業を展開する他、現場の第一線で活躍するプロに兼任教員を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施・達成度評価を行う。

**(2)実習・演習等における企業等との連携内容**

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

**<プロジェクト概要>**

**【目的】**

業界で実践されているカーデザイン開発手法を身につける。

開発車種や発売時期を限定し、顧客ニーズのリサーチ、コンセプト構築、スタイリング制作を通し、ゲーム制作を通して自動車業界で即戦力となる人材の育成と制作進行におけるリーダーシップ育成を図る。

**【プロジェクト内容】**

トヨタ車体株式会社主催「15年後のSUVデザイン開発」。

完成したものをトヨタ車体株式会社デザイン部にて実践的に評価し、学生の能力向上を行う。

**【連携内容】**

企業は業界視点で学生の課題を発見し、必要な情報を提供することでプロのクオリティに近づくアドバイスを行う。

学校はプロジェクトが円滑に進むよう、コンセプトの決定や企業から与えられた課題への学生フォローを行う。

**<評価方法>**

**【学校】**作業報告書を元にスケジュール管理、アイデアを評価。また審査会にてプレゼンテーションを評価

**【企業】**審査会ごとの進捗状況で作業効率を評価。また最終審査会では作品の内容、クオリティ、プレゼンテーションの3項目を評価

実施期間: 令和元年10月1日～令和2年7月28日

企業評価日: 令和2年7月28日

学校評価日: 令和2年7月28日

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
デザイン技術5	自動車業界が提供する課題演習を通して、実践的な自動車デザイン開発の実践を学ぶ。	トヨタ車体株式会社
デザイン技術6	自動車業界が提供する課題演習を通して、より高度な実践的な自動車デザイン開発の実践を学ぶ。	トヨタ車体株式会社
デジタルモデルⅠ	3DCADの基礎的な操作方法を学ぶ。	日産自動車株式会社
デジタルモデルⅡ	3DCADの応用的な操作方法を学ぶ。	日産自動車株式会社
デジタルモデル上級Ⅰ	実務に近い課題を通して、3DCADの高度な操作方法を学ぶ。	日産自動車株式会社
デジタルモデル上級Ⅱ	実務に近い課題を通して、3DCADのより高度な操作方法を学ぶ。	日産自動車株式会社

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教職員規程において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めている。

令和元年度においては、業界の現状と動向についての把握と具体的な必要とされるスキルを学ぶ研修、および中途退学者防止に向けた「学生一人ひとり」に対する対応策の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心とし、以下の要素が年間の授業内容に反映されるよう研修を行った。

- ① キャリア教育の視点
- ② カリキュラム改善、教育技法の改善

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「春季講師研修会」(連携企業等: 中村デザインオフィス代表中村一之様、有限会社クレールプラス代表北川良幸様)

期間: 4月6日(土) 対象: 全教員

内容: 「カーデザイン業界の人材ニーズの変化」「3Dモデリングの実際」をテーマに研修を実施。具体的な技術面だけでなく、現場で実際に起こっている問題を元に業界で求められるスキルを授業の中でどうフィードバックしていくべきかを学んだ。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「春季講師研修会」(連携企業等: 元ホンダアクセスデザイン室マネージャー菊地幸造様)

期間: 4月6日(土) 対象: 全教員

内容: 人材育成のポイントをテーマとした研修、学生やクラス状況、指導方法の共有を行い、指導力の向上につなげる研修を行った。

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「秋季講師研修会」(連携企業等: 株式会社本田技術研究所)

期間: 令和2年9月19日(土) 対象: 全教員

内容: 自動車のEV化、新興自動車企業の台頭、新型コロナウイルスによる価値観の変化等と、日本の自動車業界の対応をテーマに現場の実務の変化を学ぶ

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「秋季講師研修会」(連携企業等: 元ホンダアクセスデザイン部マネージャー菊地幸造様)

期間: 令和2年9月19日(土) 対象: 全教員

内容: 企業が実施している管理職教育の中から、新人社員や部下への指導をテーマとし紹介いただくことで、指導力の向上につなげる。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者並びに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じ、学校運営の改善に生かす事を方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織。人事・給与制度。意思決定システム。情報システム
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人
(6) 教育環境	施設・設備等、学外実習、インターンシップ等、防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

職業人教育を通じて社会に貢献できるよう、健全な経営基盤を持つ学校運営を目指す。そのために、学校評価委員会の委員からの意見を踏まえて、教育活動・環境の充実や学生支援の強化などの改善をしている。

具体的には以下が挙げられる。

学生の社会人としての挨拶をはじめとした人間教育の充実を、授業やホームルーム、就職指導などを通して学生に教授していく。

第二新卒者の問題については、学校が窓口となり第二新卒者と企業との橋渡しを行うべく同窓会などを通じてシステムの認知を推進していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
溝川 誠司	公益社団法人 日本広告制作協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	団体代表
佐山 義則	公益財団法人日本生態系協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業代表
下 康浩	東武レジャー企画株式会社	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業代表
妹尾 大輔	神畑養魚株式会社	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業代表
小林 健治	株式会社大江戸商事	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業代表
祖一 俊介	西武ペットケア	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業代表
永井 克仁	AFASスワ南	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生代表
矢嶋 和美	コミックイラスト専攻2年生保護者	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	保護者代表
菅原 豊	江戸川区新田町会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL: [http://www.tca.ac.jp/creative/school/public\\_info/index.html](http://www.tca.ac.jp/creative/school/public_info/index.html)

公開年月日 令和2年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページによる情報公開の他、学校主催の合同企業説明会や卒業・進級制作展などのイベント時での説明会、卒業生の就職先やインターンシップ等受け入れ先への直接訪問によって情報提供を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要 沿革 建学の理念 学校安全関連
(2) 各学科等の教育	受入方針 定員 カリキュラム 卒業判定基準 卒業と同時に取得する称号
(3) 教職員	教職員数 教員の業績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み 産学連携教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	校舎設備紹介 海外実学研修
(6) 学生の生活支援	中途退学防止への取り組み 健康管理
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧 奨学金・教育ローン案内
(8) 学校の財務	財務資料
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生支援 留学生の受入状況 外国の学校等との交流状況
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: [http://www.tca.ac.jp/creative/school/public\\_info/index.html](http://www.tca.ac.jp/creative/school/public_info/index.html)

公開年月日 令和2年7月1日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程自動車デザイン科昼間部) 令和2年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
								講 義	演 習	実 験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択 必修	自由 選択													
1	○		英語基礎1	高等学校までの英語学習修了者を対象に、基本的な会話能力を身に着けるための教育を行う。	1	56	2		○		○			○	
2	○		英語基礎2	英語基礎1を修了した学生を対象に、基礎的な会話能力を身に着けるための教育を行う。	1	56	2		○		○			○	
3		○	英語中級1	英語基礎を修了した学生及び同等の能力を有すると判断される学生に対し、基本的な日常会話の修得を目指すための教育を行う。	2	84	4		○		○			○	
4		○	英語中級2	英語中級1を修了した学生及び同等の能力を有すると判断される学生に対し、基本的な日常会話の修得を目指すための教育を行う。	2	84	4		○		○			○	
5		○	英語上級1	英語中級2を修了した学生及び同等の能力を有すると判断される学生に対し、TOEIC得点確保を目指すための教育を行う。	3	84	4		○		○			○	
6		○	英語上級2	英語上級1を修了した学生及び同等の能力を有すると判断される学生に対し、TOEIC得点確保を目指すための教育を行う。	3	84	4		○		○			○	
7		○	日本語1	日本語2級及び1級を取得した学生に対し、円滑に授業に参加できるレベルの日本語力習得を目指すための授業を行う。	1	56	2		○		○			○	
8		○	日本語2	日本語1修了した学生に対し、自動車業界での就労を前提とした円滑な日本語力習得を目指すための授業を行う。	1	56	2		○		○			○	
9	○		観察・表現技術1	基本的なデザインの基礎となる観察力や表現力を養う。	1	96	3			○	○			○	
10	○		観察・表現技術2	発展的なデザインの基礎となる観察力や表現力を養う。	1	96	3			○	○			○	
11	○		デザイン表現技術B1	フォフォトショップの基本操作方法を学ぶ。	1	96	3			○	○			○	
12	○		デザイン表現技術C1	イラストレーターの基本操作方法を学ぶ。	1	96	3			○	○			○	
13	○		立体表現技術1	基本的な立体把握力・表現力を身につけるための造形技法を学ぶ。	1	96	3			○	○			○	
14	○		立体表現技術2	発展的な立体把握力・表現力を身につけるための造形技法を学ぶ。	1	96	3			○	○			○	
15	○		デザイン技術1	自動車デザイン開発で必要とされる基礎知識や技術を学ぶ。	1	96	3			○	○			○	
16	○		デザイン技術2	自動車デザイン開発の実践を学びながら、自動車開発について理解を深める。	1	96	3			○	○			○	
17	○		フィジカルモデル1	道具の使い方、材料及び基本形態の制作により、モデリングの基礎を学ぶ。	1	96	3			○	○			○	
18	○		フィジカルモデル2	自動車のモデリング実践を学ぶ。	1	96	3			○	○			○	
19	○		図面	自分の意図した形状を第三者に伝えるための基礎的なJ I S図面の手法を学ぶ。	1	32	1			○	○			○	
20	○		ビジネスツール1	「Excel」「Word」の基本操作を習得する。	1	32	1			○	○			○	
21	○		ビジネスツール2	「Power Point」の基本操作を習得する。	1	32	1			○	○			○	
22	○		デジタルモデル1	3DCADの基礎的な操作方法を学ぶ。	2	84	3			○	○			○	○
23	○		デジタルモデル2	3DCADの応用的な操作方法を学ぶ。	2	84	3			○	○			○	○
24	○		デザイン表現技術B2	描画ソフトを用いて車両の描画を行う基本技術を習得する。	2	84	4		○		○			○	
25		○	デザイン技術3	課題演習を通して、自動車デザイン開発の実践を学ぶ。	2	84	4		○		○			○	
26		○	デザイン技術4	自動車を取り巻く社会への問題提起、解決技術を学ぶ。	2	84	4		○		○			○	
27		○	二輪デザイン技術1	二輪デザインの基礎技術を習得する。	2	84	4		○		○			○	
28		○	二輪デザイン技術2	二輪デザインの応用技術を習得する。	2	84	4		○		○			○	
29	○		自動車工学	車輛の構造や製造方法等について学ぶ。	2	64	2		○		○			○	
30	○		フィジカルモデル3	職業理解を深め、企業人として通用する基礎知識や基礎技術力を身につける。	2	168	8		○		○			○	
31	○		フィジカルモデル4	職業理解を深め、企業人として通用する応用知識や応用技術力を身につける。	2	168	8		○		○			○	
32	○		色彩	色彩の基本構造を学びそれらを応用した課題で実践的な色彩技術を学ぶ。	2	28	1			○				○	
33		○	デザイン表現技術B3	描画ソフトを用いて車両の描画を行う応用技術を習得する。	3	84	4		○		○			○	

34	○		D	デザイン技術5	自動車業界が提供する課題演習を通して、実践的な自動車デザイン開発の実践を学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
35	○			デザイン技術6	自動車業界が提供する課題演習を通して、より高度な実践的な自動車デザイン開発の実践を学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
36	○			デジタルモデル3	3DCADの実践的な操作方法を学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
37	○			デジタルモデル4	3DCADのより高度な実践的な操作方法を学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
38	○		M	フィジカルモデル5	自動車業界が提供する課題を通してモデリング実践を学ぶ。	3	168	8		○		○		○	○
39	○			フィジカルモデル6	自動車業界が提供する課題を通してより高度なモデリング実践を学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
40	○			デジタルモデル上級1	実務に近い課題を通して、3DCADの高度な操作方法を学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
41	○			デジタルモデル上級2	実務に近い課題を通して、3DCADのより高度な操作方法を学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
42	○			自動車史	自動車の歴史について体系的に学ぶ。	3	56	2		○		○		○	○
43	○			自動車業界理解1	就職活動に必要な基礎知識や心構えを、主に講義形式で学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
44	○			自動車業界理解2	就職活動に必要な基礎知識や心構えを、主に演習形式で学ぶ。	3	84	4		○		○		○	○
45	○			デザイン技術7	実務を前提にした、実践的な車両デザイン技術を学ぶ。	4	84	4		○		○		○	○
46	○			デザイン技術8	実務を前提にした、より高度な実践的車両デザイン技術を学ぶ。	4	84	4		○		○		○	○
47	○			フィジカルモデル7	実務を前提にした、実践的な車両モデリング技術を学ぶ。	4	84	4		○		○		○	○
48	○			フィジカルモデル8	実務を前提にした、より高度な実践的車両モデリング技術を学ぶ。	4	84	4		○		○		○	○
49	○			デジタルモデル5	実務を前提にした、実践的な3D車両モデリング技術を教授する。	4	84	4		○		○		○	○
50	○			デジタルモデル6	実務を前提にした、より高度な3D実践的車両モデリング技術を教授する。	4	84	4		○		○		○	○
51	○			デジタルモデル上級3	デジタルモデル職を目指す学生に対して、実務とに近い高いレベルのデジタル造形技術を教授する。	4	84	4		○		○		○	○
52	○			デジタルモデル上級4	デジタルモデル職を目指す学生に対して、実務と同等レベルのデジタル造形技術を教授する。	4	84	4		○		○		○	○
53	○			卒業研究1	学習の集大成として自立テーマによる研究・制作課題の立案方法を教授し、課題進行について教授する。	4	84	8		○		○		○	○
54	○			卒業研究2	学習の集大成として自立テーマによる研究・制作を行い、評価する。	4	84	8		○		○		○	○
55	○			インターンシップ(1)		-	-	-		○		○		○	○
56	○			インターンシップ(2)	企業が主催するインターンシップに参加し、実践的なデザイン制作技術を企業より学ぶ。	-	-	-		○		○		○	○
57	○			インターンシップ(3)		-	-	-		○		○		○	○
58	○			インターンシップ(4)		-	-	-		○		○		○	○
59	○			海外実学研修(1)	海外の車両デザイン現場を訪問し、海外における車両開発の現状と、国別による車両ニーズの違いについて学習する。	-	90	2		○		○		○	○
60	○			海外実学研修(2)		-	90	2		○		○		○	○
61	○			就職指導・業界研究1	自動車業界の構造や仕組みについて理解し、自動車業界におけるデザインの役割や重要性を理解する。	4	84	8		○		○		○	○
62	○			就職指導・業界研究2	学生が将来の職場である自動車業界を学生本人と照らし合わせて理解し、将来の職場を獲得するための考え方や技術を教授する。	4	84	8		○		○		○	○
合計						62科目						220単位			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学期ごとに試験を行い、また最終学年の終わりには、卒業試験を行う。その授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議に基づき、課程修了の認定を行う。ただし、演習、実習については演習、実習の成績によって修了を認定することができる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。